

平成24年6月27日

第19回サイエンスカフェ開催

## 「計算するアメーバの不思議」

～2度のイグノーベル賞に輝く単細胞生物の底力～

広島大学大学院理学研究科は、第19回サイエンスカフェを下記のとおり開催します。今回は、本研究科の小林 亮 教授をゲストに迎え、「粘菌」に関するお話をご用意しています。

ゲストの先生も参加者のみなさんもコーヒーを片手にくつろいだ雰囲気を楽しむサイエンスカフェ。身近な科学に興味がある方なら、どなたでも気軽に参加していただけます。

### 記

【日 時】 平成24年7月28日（土）14時30分～16時30分  
（受付開始14：00）

【場 所】 広島大学東広島キャンパス  
la placeマーメイドカフェ広島大学店  
（東広島市鏡山1-2-1 電話：082-422-7146）

【テーマ】 計算するアメーバの不思議  
～2度のイグノーベル賞に輝く単細胞生物の底力～

【話し手】 小林 亮（こばやし りょう）広島大学大学院理学研究科 教授

【内 容】  
山の中の朽木にいて微生物や有機物を食べている単細胞生物「粘菌」が、複雑な迷路を解きました。その不思議に満ちた単細胞生物「粘菌」について解説していただきます。

【サイエンスカフェHP】 <http://home.hiroshima-u.ac.jp/sciyugo/scicafe/>

【参加費】 無料（7月24日（火）までに申し込みの方に限り、ワンドリンクサービス）

【参加申し込み】 メールで下記までお申し込みください。

- ・ 申し込み先 [soicafe@hiroshima-u.ac.jp](mailto:soicafe@hiroshima-u.ac.jp)
- ・ 定員 60名程度

【お問い合わせ先】

広島大学大学院理学研究科 附属理学融合教育研究センター事務局 畑  
電話/FAX：082-424-4384



コーヒーを飲みながら聞く科学の話は楽しい サイエンスカフェへようこそ!

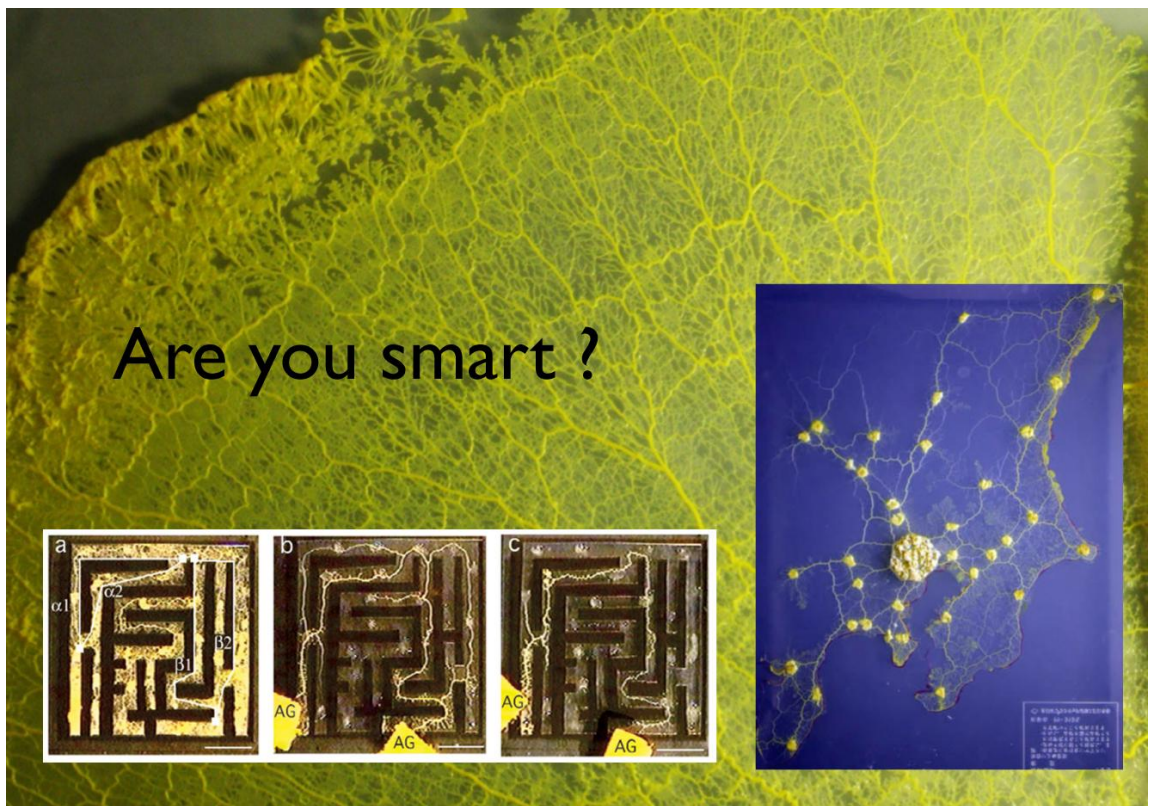
# サイエンスカフェ

広島大学 大学院理学研究科

第19回企画

# 計算するアメーバの不思議

—2度のイグノーベル賞に輝く単細胞生物の底力—



話し手：小林 亮 教授(広島大学大学院理学研究科)

聞き手：寺本 紫織

【日時】平成24年7月28日(土) 14:30-16:30 (受付開始 14:00)

【場所】la place マーメイドカフェ広島大学店

【対象】小学生以上

【参加申込等】参加希望の方はメールでお申し込みください。

(電話の場合は月曜～金曜 9:00～17:00)

定員60名程度。7月24日(火)までに申込の方には  
ワンドリンクをサービスします。

【申込・問合せ先】理学融合教育研究センター事務局 畑

TEL/FAX: 082-424-4384 e-mail: scicafe@hiroshima-u.ac.jp

【ホームページ】<http://home.hiroshima-u.ac.jp/sciyugo/scicafe/>



広島大学東広島キャンパス地図





## サイエンス カフェ

広島大学 理学研究科

# コーヒーや紅茶を飲みながら、アットホームな雰囲気 で楽しく「科学」について語り合いませんか？

授業や講演会などとは違う「科学を題材にコミュニケーションする空間」を演出したいと、広島大学理学研究科の有志が集まり、「サイエンスカフェ」活動を始めました。参加資格はたった一つ。

**“身近な科学に触れてみたい方！”**

これだけです。好奇心旺盛な皆様のご参加をお待ちしています。

## どんな感じのイベントなの…？

話し手の先生も聴衆の皆さんも、お互いにコーヒーを飲んだりお菓子をつまんだりしながら、くつろいだ雰囲気です話を進めていきます。

進行役の“ファシリテーター”(聞き手)がときには小道具などを使って、話の内容をより分かりやすく皆さんに伝える手助けをしてくれます。



## 「理が苦」から「理楽」へ

科学はとってもドキドキ・ワクワクするもの。だから、話の途中で質問するのも大歓迎。でも、質問をしたくても手が挙げづらいこともありますよね？ そんな心配は、サイエンスカフェならば無用です！ 質問カードに聞きたいことを書き込めば、聞き手の方が皆さんの代わりに話し手に質問してくれます。

これまで理科や科学が苦手だった人も、一緒に楽しみませんか？



## さて、今回のサイエンスカフェは…

今回の講演者は広島大学の切り札、小林亮先生です。みなさんは「粘菌」をご存知ですか？ 山の中の朽木にいて、微生物や有機物を食べています。変形して移動する(動物っぽい)変形体と、まったく動かない(キノコのような)子実体という、はっきり異なった姿をもつ単細胞生物です。

宮崎駿の漫画「風の谷のナウシカ」に登場したり、南方熊楠の研究で有名な生物ですが、かくいう担当の古本(植物学)は野外でも実験室でも実物をみたことはありません。ちょっと調べるだけでも生物学的な不思議に満ちた生物ですが、どうやら複雑な迷路を解く能力ももつらしいのです。小林先生はこの「粘菌」の研究でイグノーベル賞を2度も受賞されました。イグノーベル賞と言えば、犬の声を翻訳する「バウリング」の開発など「人々を笑わせ、そして考えさせてくれる研究」に贈られる名誉ある賞です。小林先生は粘菌のどの面白さに着目し、そして何を聞き出したのか、解説していただきます。